

2025年3月期（2024年度） 決算説明資料

2025年5月26日

株式会社 指月電機製作所

(東証スタンダード/証券コード6994)

代表執行役社長 足達信章

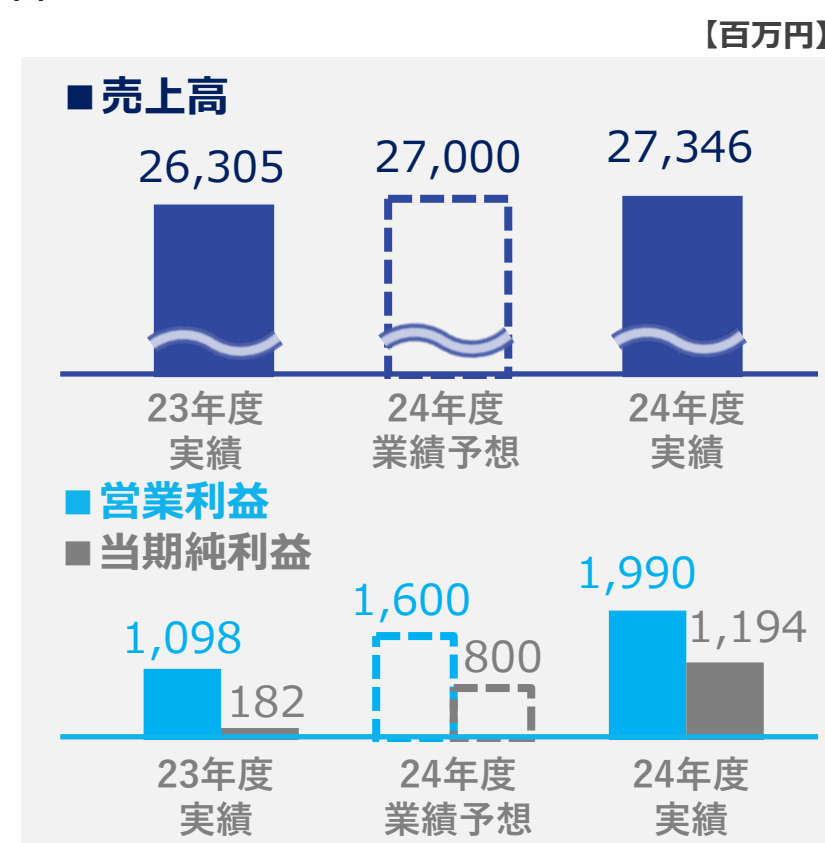
1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要
 2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し
 3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要
- 補足資料

1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要

- ▶ 売上高は、xEV用コンデンサが減少したものの、電力機器システムの需要増に加えて、産業機器用コンデンサの伸長等があり、前年度及び業績予想値を共に上回り、4期連続で過去最高を更新。
- ▶ 営業利益は、生産性改善の効果に加え、サプライチェーンにおける価格適正化への対応、円安効果が奏功し増益。
当期純利益は、前年に発生した一時費用の収束等により大幅増益。

【百万円】

項目	2023年度 通期	2024年度通期		前年度比
		業績予想	実績	
売上高	26,305	27,000	27,346	+1,040 (+4%)
営業利益	1,098	1,600	1,990	+892 (+81%)
営業利益率	4.2 %	5.9 %	7.3 %	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	182	800	1,194	+1,012 (556%)



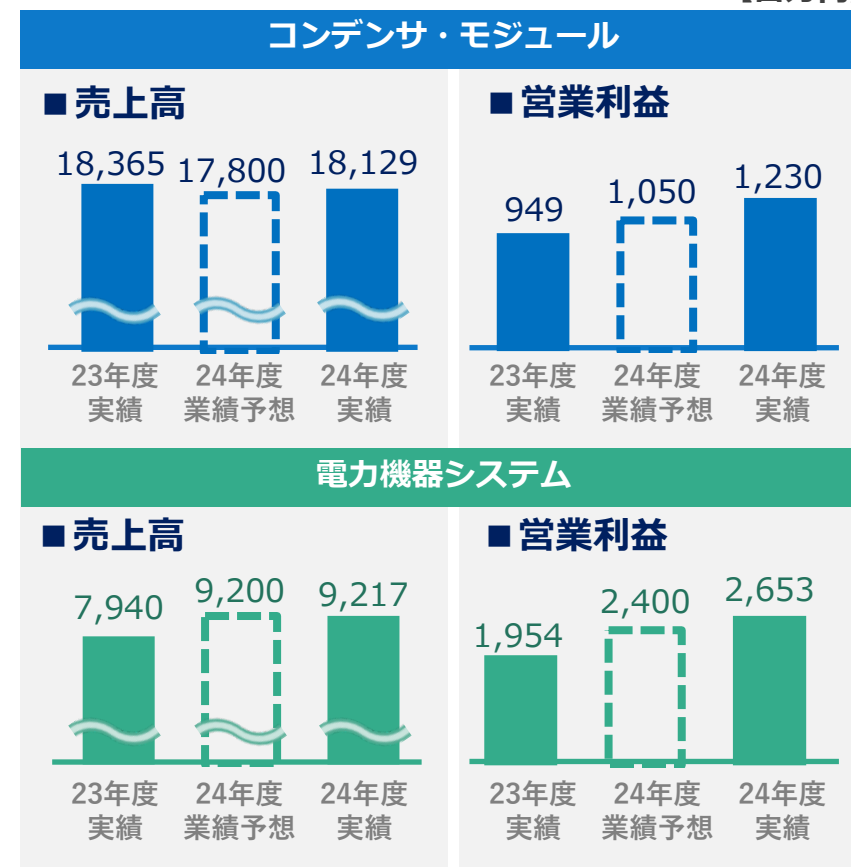
1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要

- ▶ コンデンサ・モジュールの売上高は、産業機器用コンデンサが増加したものの、xEV用コンデンサの減少等により、前年度比減収。
営業利益は、生産性改善の効果に加え、調達先並びに顧客への適切な価格転嫁の対応等により、増益。
- ▶ 電力機器システムは、国内向けの需要増、適切な価格転嫁への対応等により、増収増益。

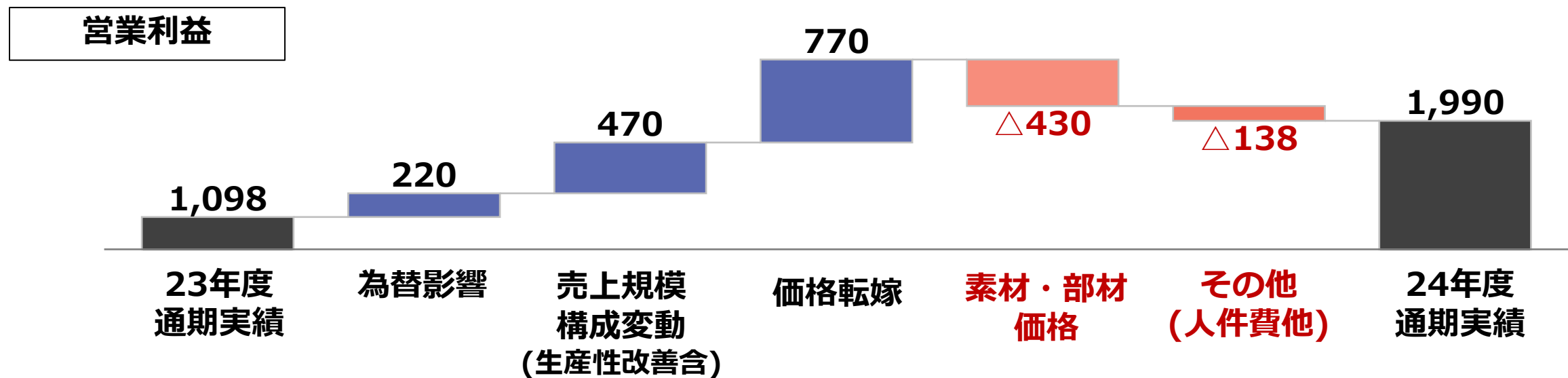
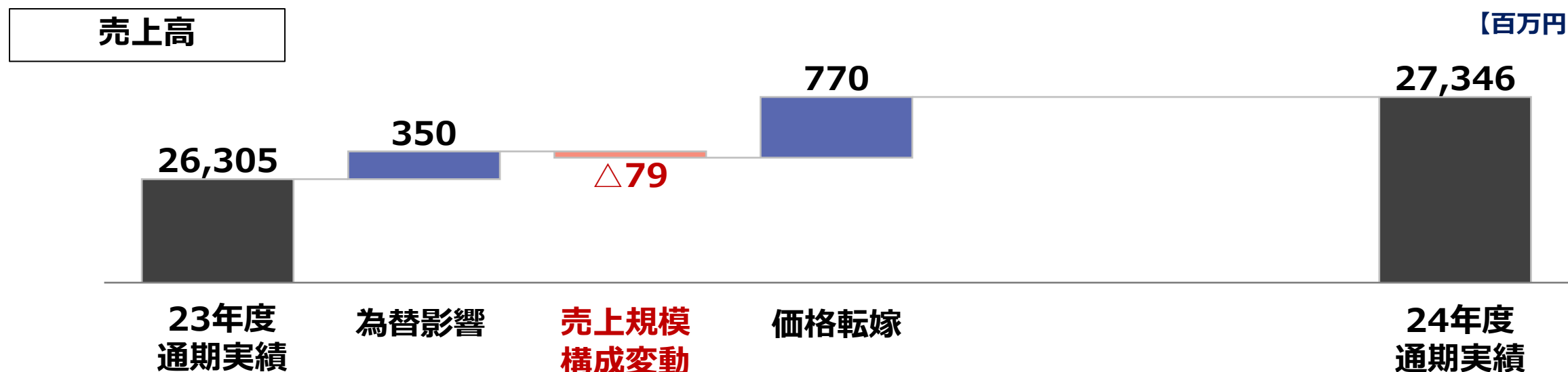
【百万円】

セグメント	項目	2023年度 通期	2024年度通期		前年度比
			業績予想	実績	
コンデンサ・ モジュール	売上高	18,365	17,800	18,129	▲236 (▲1%)
	営業利益	949	1,050	1,230	+281 (+30%)
	営業利益率	5.2%	5.9%	6.8%	—
電力機器 システム	売上高	7,940	9,200	9,217	+1,277 (+16%)
	営業利益	1,954	2,400	2,653	+699 (+36%)
	営業利益率	24.6%	26.1%	28.8%	—
セグメント利益の調整額		▲1,805	▲1,850	▲1,892	▲87

【百万円】



1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要

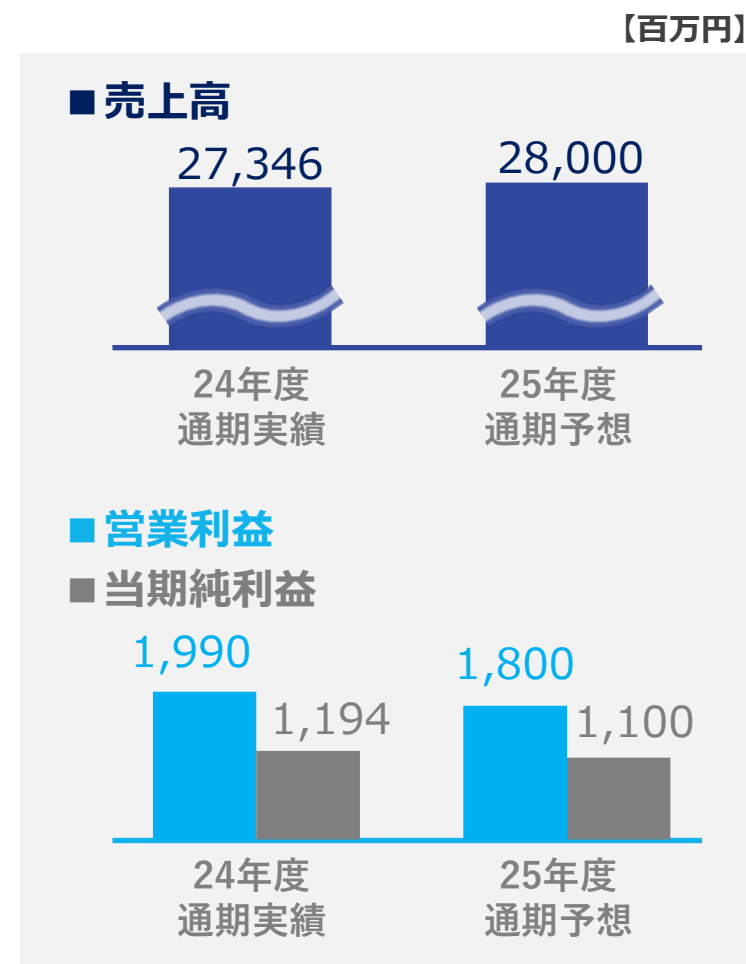


1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要
 2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し
 3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要
- 補足資料

2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し

- ▶ 電力機器システムの増収等を見込み、売上高は前年度を上回る280億円を計画。
- ▶ 営業利益は、為替条件の円高への見直しに加え、関税影響を織り込んだことから前年度比 ▲1.9億円減益となる18億円を計画。

項目	【百万円】		
	2024年度 通期	2025年度 通期 最新予想	前年度比
売上高	27,346	28,000	+653
(上期/下期)	12,838/ 14,507	12,900/ 15,100	+61/ +592
営業利益	1,990	1,800	▲190
(上期/下期)	562/ 1,428	550/ 1,250	▲12/ ▲178
営業利益率	7.3%	6.4%	—
(上期/下期)	4.4%/ 9.9%	4.3%/ 8.3%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,194	1,100	▲94
(上期/下期)	230/ 963	300/ 800	+70/ ▲163



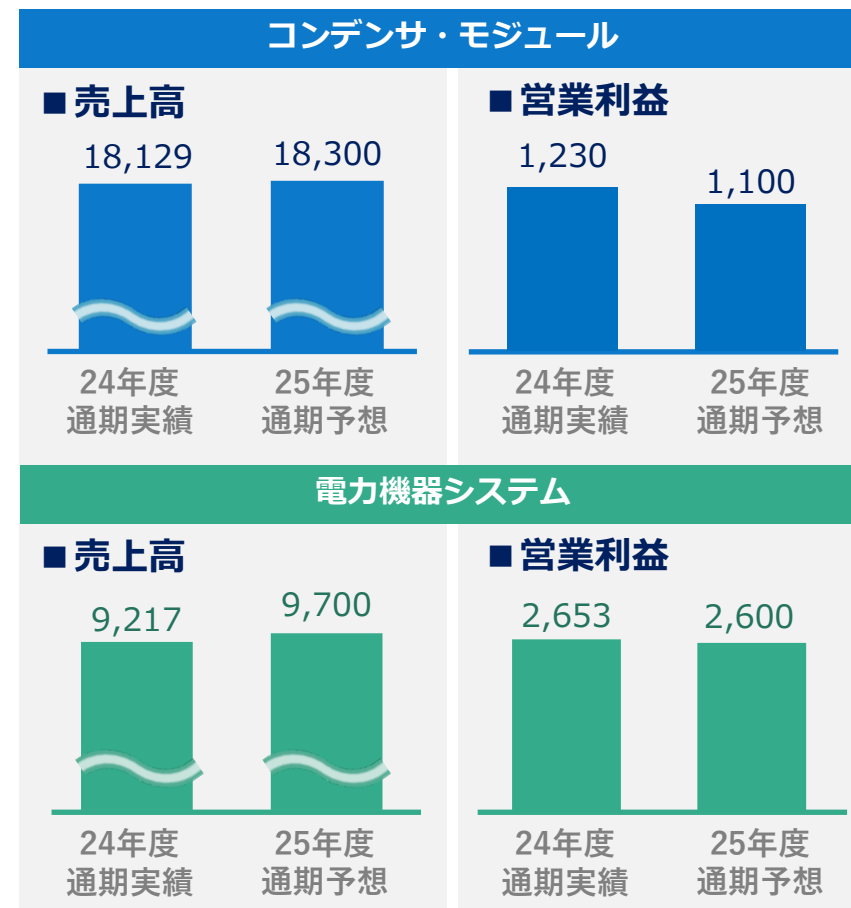
2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し

- ▶ コンデンサ・モジュールの売上高は、前年度比1%の増収を見込む。
営業利益は、為替条件の円高への見直し、関税影響の織込み等により減益となる見込み。
- ▶ 電力機器システムは、環境省エネ機器の需要増加等により前年度比5%の増収を見込む。
営業利益は、売上構成の変動、為替条件の円高への見直し等により、減益となる見込み。

【百万円】

項目	セグメント	2024年度 通期	2025年度 通期 最新予想	前年度比
コンデンサ・ モジュール	売上高	18,129	18,300	+170
	営業利益	1,230	1,100	▲130
	営業利益率	6.8%	6.0%	—
電力機器 システム	売上高	9,217	9,700	+482
	営業利益	2,653	2,600	▲53
	営業利益率	28.8%	26.8%	—
セグメント利益の調整額		▲1,892	▲1,900	+8

【百万円】



2. 2026年3月期（2025年度）通期 最新見通し

経営指標

▶ 中期経営計画第Ⅲ期の初年度となる2025年度の経営計画は下表のとおり。

項目	単位	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (最新予想)
売上高	中期経営計画	【億円】	262	280
	実績/予想値	【億円】	263	280
営業利益	中期経営計画	【億円】	20.0	17.0
	実績/予想値	【億円】	10.9	18.0
		【%】	4.2	7.3
親会社株主に 帰属する 当期純利益	実績/予想値	【億円】	1.8	11.9
設備投資 (意思決定ベース)	実績/予想値	【百万円】	3,687	745
			3,300	

2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し

設備投資・ROE・ROA・配当

- ▶ 設備投資は、本社生産棟の建替えや秋田新建屋の設備導入を予定しており、前年比増加。
- ▶ ROE/ROAは、生産性の更なる改善、有形・無形の資産の有効活用を推し進め、資本・資産効率の改善に努める。
- ▶ 2024年度年間配当は前回予想比+4円/株増配となる14円/株(中間配当3円/株、期末配当11円/株)を決定。2025年度年間配当予想は、年間14円/株を計画。

項目	単位	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (最新予想)
設備投資 (意思決定ベース)	【百万円】	3,687	745	3,300
ROE	【%】	0.8	5.2	4.6
ROA (営業利益ベース)	【%】	2.9	5.3	4.7
配当	【円/株】	8.5	14.0	14.0
配当性向	【%】	126.6	29.6	32.1

＜補足＞ 四半期別 事業別売上推移

重点事業		2022年度					2023年度					2024年度					2025年度	
		実績																予想
		1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	年間	
コンデンサ	産業機器	1,879	2,099	2,202	1,982	8,163	2,206	2,380	2,375	2,465	9,426	2,493	2,613	2,113	2,820	10,039	10,200	
	自動車 (xEV)	1,628	1,644	1,956	1,754	6,984	1,442	1,213	1,344	1,048	5,048	846	1,157	1,271	1,043	4,317	4,450	
	その他	960	1,000	1,139	1,174	4,274	1,047	995	910	940	3,893	906	952	977	939	3,773	3,650	
	合計	4,468	4,744	5,297	4,911	19,422	4,695	4,588	4,630	4,453	18,365	4,245	4,722	4,361	4,802	18,129	18,300	
電力機器	電力 (国内)	1,022	1,172	1,451	1,377	5,026	1,086	1,435	1,860	1,624	6,005	1,343	1,604	2,013	2,444	7,404	7,300	
	電力 (海外)	246	192	160	157	755	162	184	158	217	722	192	211	272	155	830	850	
	環境省工ネ	181	333	104	143	763	168	321	278	224	991	356	121	147	119	743	1,200	
	その他	5	89	21	45	162	40	68	46	70	224	30	16	73	121	241	350	
	合計	1,456	1,787	1,738	1,723	6,705	1,456	2,008	2,342	2,135	7,940	1,921	1,952	2,506	2,839	9,217	9,700	
総合計		5,925	6,531	7,035	6,634	26,127	6,151	6,596	6,972	6,588	26,305	6,165	6,674	6,867	7,641	27,346	28,000	

1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要
 2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し
 3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要
- 補足資料

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

1) 指月電機グループの経営方針

社 是

我々は人間性を尊重し、環境を大切に作る無駄の無い物づくりにより、お客様に満足を提供し、社業の発展を通して社会に貢献します



社是の実現に向け、2019年度に若手社員を中心に長期経営ビジョンを策定

長期経営ビジョン

挑戦する社風へと変革し、品質第一のものづくりと、未来を見据えた新技術・新商品の開発、グローバルな事業展開の推進により、社員の夢を実現し社会に貢献する企業グループとなる



長期経営ビジョン達成のために、3期に分けた中期経営計画を策定

中期経営計画

第Ⅰ期 2019～2021年度

第Ⅱ期 2022～2024年度

第Ⅲ期 2025～2028年度

100年企業を目指した
経営基盤の確立

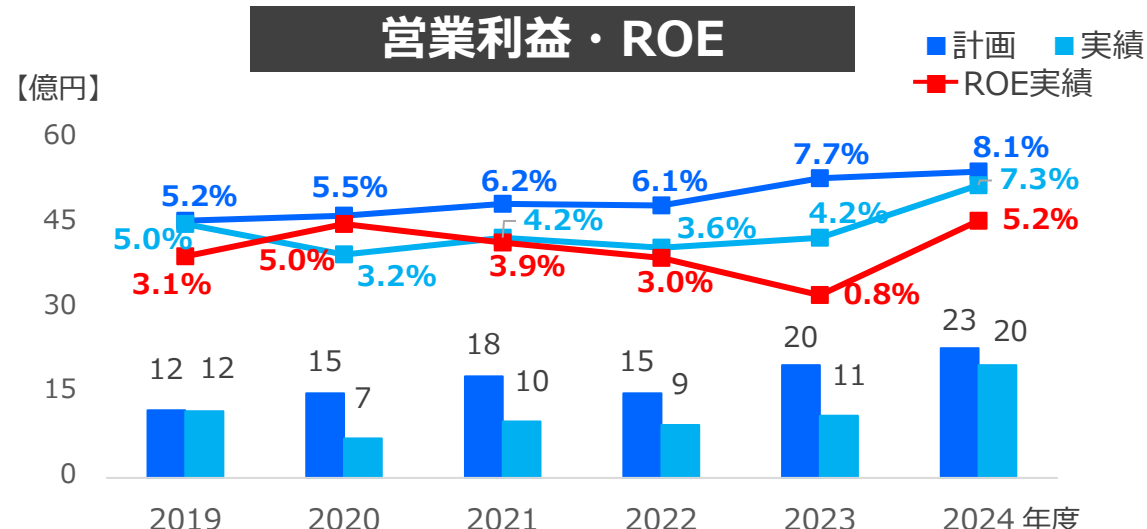
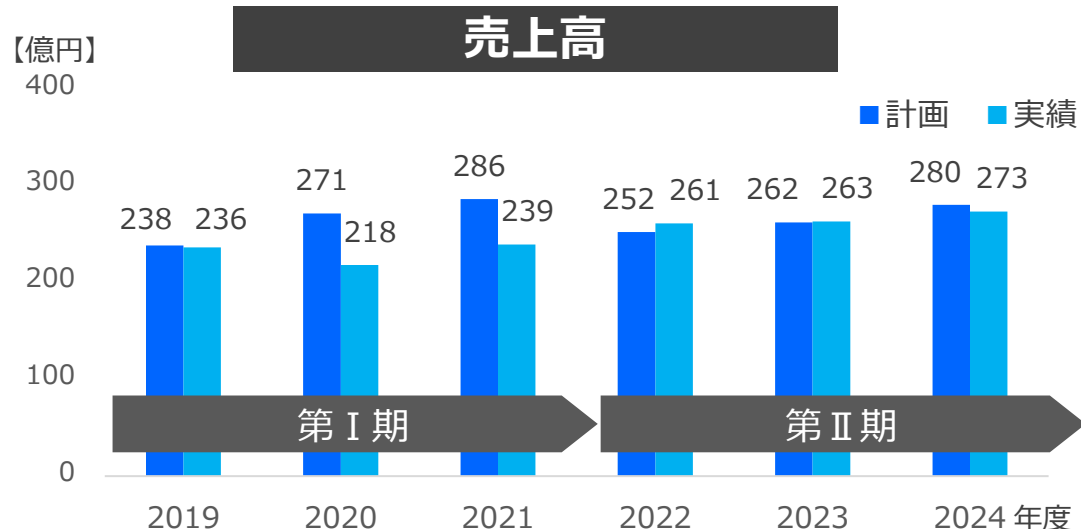
事業成長に向けた
攻めの経営

企業価値向上に向け
融合からシナジーへ

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

2) 中期経営計画の振り返り

※ 計画値は中期計画作成時。2024年期初計画値のみ、2024年5月の公表値。



経営成果総括

- 売上高** : 2019年度以降、コロナ禍、部材の需給逼迫等が継続し、第Ⅰ期は当初計画比大幅減収。第Ⅱ期は改めて直近の経済環境を踏まえた計画を立案。2024年度は、xEV減収により計画に至らなかったものの、第Ⅱ期をとおしほぼ計画並みに推移。2021年以降4年連続で過去最高を更新。
- 営業利益** : 操業度の低下、部材価格の高騰等が収益力を圧迫。サプライチェーンにおける価格適正化や生産性改善への取り組みを着実に進めてきた結果、2024年度は、7.3%まで回復。
- ROE** : 収益力低下を主因に資本効率は低迷。2024年度は、5.2%まで回復したものの、資本コストを上回る水準に至っていない。

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

3) 第Ⅲ期の基本方針

中期経営計画 第Ⅲ期のテーマ

企業価値向上に向け
融合からシナジーへ

～**知の融合の拡大展開**で、社会に必要とされる企業を目指す～

Mission	電気エネルギーの有効利用を支え、社会の持続的成長に貢献する
Vision	電気エネルギーの有効活用において無くてはならない存在となる ・顧客のニーズを超える製品競争力（技術・品質・コスト）を獲得 ・電気エネルギーマネジメント（省エネ、電力品質など）における多様なニーズに応えるソリューション企業となる

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

4) 現状認識と対応方針

第Ⅲ期

知の融合を拡大展開し、全社一体となった組織間連携、能力向上活動により、人的・物的資源の有効活用を促進し、競争力向上と企業価値向上を推進する

		従来方針	環境変化/当社の課題	対応方針	
コンデンサ	xEV	シェア15%以上の獲得	EVを取り巻くOEM動向の変化、 実需変動による投入資源未回収	事業ポートフォリオの 見直し	・資源(人、モノ、カネ、ノウハウ)の 有効活用/高度化を目指した コンデンサ軸での統合運営
	産業機器	国内トップシェア獲得 海外シェア拡大	市場拡大の中での競争激化		
電力・環境省エネ		新規事業立ち上げ、 既存事業シェア維持	市場拡大への追随、 変圧器を軸とした業界構図の変化	営業体制再整備 製品開発力の向上	・プロモーション活動の強化 ・製品リニューアルによる付加価値 向上
次世代対応		—	次世代電力ネットワークの構築等 による、新たな市場形成の可能性	次世代に向けたコン デンサとの機能融合	・エネルギーマネジメントにおける 革新的なトータルソリューション の創造
経営効率		成長する市場への対応、 ROE8%確保	競争力向上の一方での投資最適化、 効率的な資産運営による需要変動 への対応力向上	人的/物的資産の有効 活用を可能とする運営 の推進	・効率的な事業運営体制の構築 ・対象/事業特性に応じた投資運営 ・改善活動に総資産改善観点を付加

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

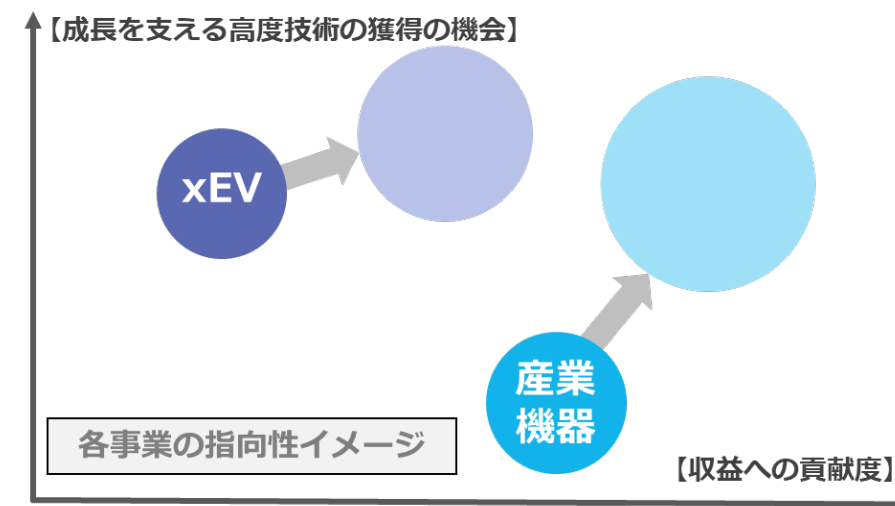
5) 事業ポートフォリオ戦略

①コンデンサセグメントの事業ポートフォリオ戦略

▶ 「当社としての中期的な企業価値向上」の視点で、「今後の持続的な成長の可能性」と「収益への貢献度」を勘案し、事業方針を検討

	xEV事業	産業機器事業
事業環境	<ul style="list-style-type: none"> 市場は迷走しつつ緩やかに成長 案件確保に先行設備投資が必要 競争が激しく高度技術の獲得機会が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 市場は今後も成長基調 収益効率は比較的高い 海外メーカーとの競争が激化
課題	<ul style="list-style-type: none"> 実需変動によって投資回収が停滞し、収益悪化 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大する市場に対応した、製品競争力強化、生産／開発体制の拡充が必要

対応方針	既存投資で対応可能な案件（現受注済案件）に注力する	xEV技術（開発、製造）を転用し、製品競争力・生産能力を向上させる
------	---------------------------	-----------------------------------



獲得すべき高度技術
 xEV：SiCインバーターニーズに対応した小型化・高耐熱化及び構造設計技術の高度化
 産業：パワーエレクトロニクスを支える次世代インバータ（SiC、GaN）への対応、製造/品質管理における自動車の方法論展開

事業を統合し、トータルでの事業効率を最大化する

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

5) 事業ポートフォリオ戦略

②指月電機としてのトータルソリューション

■コンデンサ（デバイス）のコア技術と、パワエレ機器（システム）の設計ノウハウを融合させ、外部環境の変化に対応する革新的なソリューションビジネスを確立する。

外部環境の変化

- 脱炭素社会におけるエネルギーミックスの変化
- 電力ネットワークの次世代化
- パワー半導体の次世代化

デバイスとシステムの融合による革新的なソリューション

- GTO搭載変換器に採用
- IGBT搭載電車に採用
- xEVに採用
- SiC搭載電車に採用

コンデンサ

- EV用充放電器開発
- SiC搭載PM装置開発
- 瞬低補償装置の量産化
- アクティブフィルタのデジタル化
- アナログ式アクティブフィルタ量産化

パワエレ機器

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

6) 事業ごとの固有戦略 ①xEV

第Ⅱ期の振り返り

- ・国内ターゲット顧客はシェアが減少
 - ・欧州は新規案件獲得に苦戦
- 事業部化の効果はあるものの、技術競争力・価格競争力に課題

市場環境

- ・BEVの伸長は目先鈍化するものの、大局的には拡大傾向
- ・当社顧客は劣勢であり、挽回のためサプライヤーに対する価格要求が激化する

第Ⅲ期の対応

▶戦略の変更

- ・投下資源の有効活用、新規受注を抑制、手持ち案件の生産に注力
- ・国内STⅠ/STⅢ案件を最優先ターゲットとし、海外は価格以外の付加価値を追求する顧客、案件に特化する

▶競争力の向上

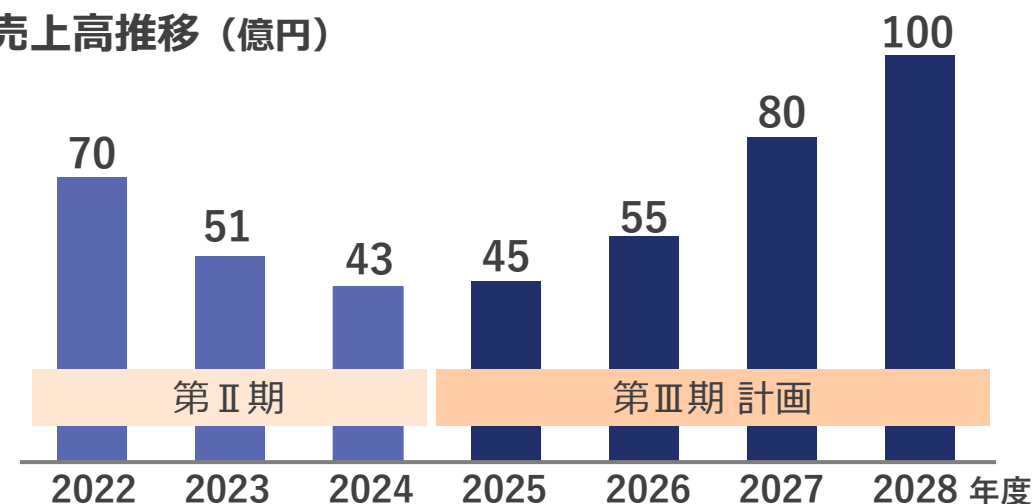
PRM/TRM(※)の達成で、競争力のある製品価格を実現する

▶収益力拡大

原価低減を推進し、需要変動リスクを見込んだ投資の最適化を図る

※ PRM (Product Roadmap) : 製品の長期的なビジョンと方向性を示す
TRM (Technical Roadmap) : 将来の技術の変遷を表現したマップ

売上高推移 (億円)



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

6) 事業ごとの固有戦略 ②産業機器

第Ⅱ期の振り返り

- ・コロナ禍終息後、国内向けは順調に回復し、シェアも伸長
- ・需要集中により一時供給能力不足となったが、徹底した改善活動により解消

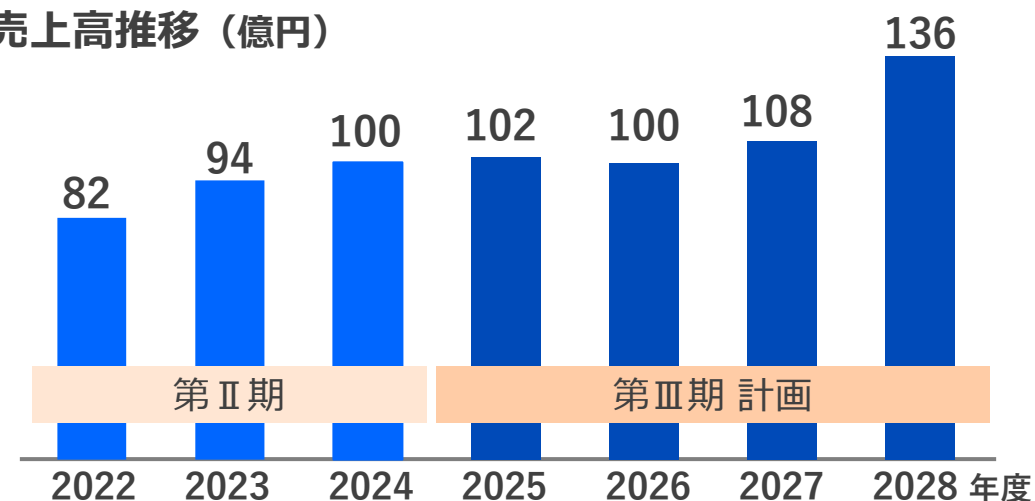
市場環境

- ・電力需要の拡大、脱炭素推進によるパワエレ機器の需要は引き続き成長基調
- ・海外メーカーとの競争が激化

第Ⅲ期の対応

- ▶ **グローバルスタンダード製品の投入によるシェア拡大**
 - ・グローバルで戦える製品の早期実現
 - ・海外向けプロモーション活動で当社認知度向上を目指す
- ▶ **xEVの知見を生かした製品開発**
加工条件の最適化と加工精度の向上により、価格競争力を強化した製品を開発
- ▶ **需要拡大に応じた生産体制の構築**
既存主力製品の生産能力を拡大し、需要増のタイミングを見極め、大幅な生産増強に取り組む

売上高推移（億円）



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

6) 事業ごとの固有戦略 ③電力・環境省エネ

第Ⅱ期の振り返り

- ・ コロナ禍終息後、設備投資の再開・半導体需要の伸長により売上はほぼ回復
- ・ 市場変化の分析不足により、開発品の製品化が中止
- ・ 部門間連携によるプロモーション活動を開始

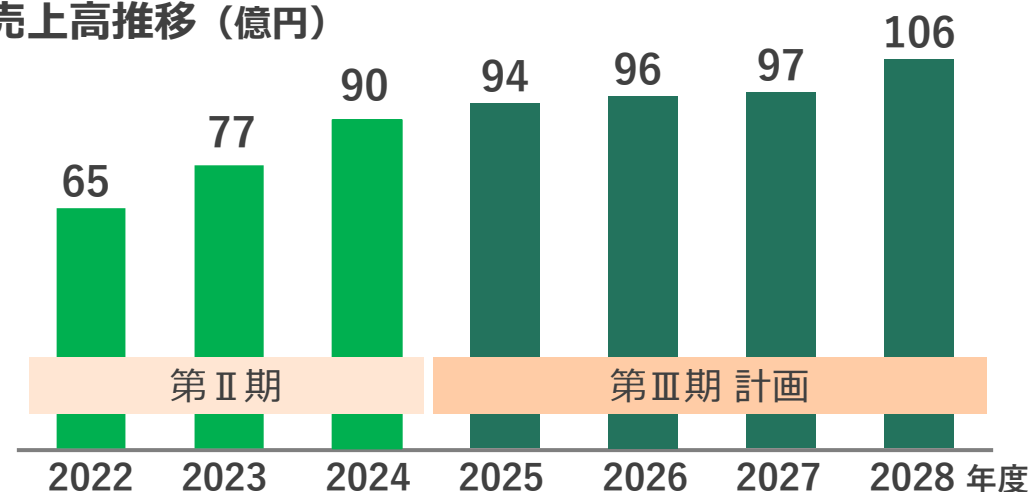
市場環境

- ・ 電力機器としての総需要は長期的に横ばい。変圧器を中心とした業界再編が進む
- ・ 脱炭素化による省エネ、生成AI/データセンターを含む半導体需要の拡大

第Ⅲ期の対応

- ▶ **部門間連携での拡販・プロモーション活動の推進**
開販製一体となった会議体を主導し拡販・プロモーション活動を推進する
- ▶ **新製品開発の推進**
パワエレ技術のさらなる強化と、顧客ニーズに合わせた新製品開発により、製品の市場競争力を向上させる





売上高推移（億円）



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

■ 電力・環境省エネにおける市場環境と当社の取り組み

国内電力	<ul style="list-style-type: none"> 電力総需要は増加傾向 再生エネの大量導入により配電・送電システムで新たなソリューションビジネスチャンスを見込む
環境省エネ	<ul style="list-style-type: none"> BCPとしての瞬低対策や、電力の有効活用として回生電力利用、電力平準化ニーズが増加

市場環境と必要な対策		当社の取り組み
エネルギー効率の向上	低損失化	<ul style="list-style-type: none"> 低損失製品の提供 インバータ化で増加する高調波への対策製品提供 直流送電向け電力変換技術向上に対応した製品提供 
天候/自然災害への備え	瞬低・停電対策	<p>BCP対策として、豊富なラインナップでの製品提供</p> 
脱炭素化の推進	省エネ・電力有効利用	<p>回生電力利用や、電力負荷の平準化ニーズに応える製品提供</p> 
再生可能エネルギー増加	電圧・周波数変動電力の平準化	<p>電力変換技術（高電力密度/高効率/高機能）を向上させた製品開発の強化推進</p> 



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

7) ROE改善活動推進

資金・資本の有効活用による、成長・機能強化投資の原資獲得、及びその原資を活用しての一層の企業価値向上/株主還元拡大の実現

課題認識

会社全体として資本コストを下回るROEの改善に向け、資源配分の適正化(=ROEの向上)が必要。

ROE

=

当期純利益率

×

総資産回転率

×

財務レバレッジ

||

||

||

従来の収益向上活動に加え、

- ▶ 「資本コストを意識した経営」
- ▶ 「PBR1倍以上や資本コストを上回るROEの実現」を強く意識した施策を併せ、
- 「企業価値、株主還元」の向上拡大に取り組む

当期純利益 ↑↑

- ・ 事業ポートフォリオの見直し
- ・ 原価低減、生産性向上

÷

売上高 ↑

- ・ グローバルスタンダード品投入
- ・ 新規ビジネスモデルの確立

売上高 ↑

- ・ グローバルスタンダード品投入
- ・ 新規ビジネスモデルの確立

÷

総資産 →

- ・ 既存設備の転用促進、共有化設備の拡大、
- ・ 資金効率改善

総資産 →

- ・ 既存設備の転用促進、共有化設備の拡大、
- ・ 資金効率改善

÷

自己資本 →

- ・ PBRを意識した株主還元
- ・ 自己株式の活用

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

7) ROE改善活動推進

目指していく方向性

自己資本、総資産の増加を抑制しつつ、売上、当期純利益の増加を図る

当期純利益 ↑↑

倍増

- ▶ xEV、産業機器の事業ポートフォリオ見直し
- ▶ 継続していた生産性改善、販売価格の適正化が2024年度に成果として結実。2025年度以降も継続強化
- ▶ 加えて、製品競争力の強化、資産効率向上を推進

売上高 ↑

増加

- ▶ xEVについては、既に確保している案件に注力（これにより固定費回収を促進）
- ▶ 産業でのグローバルスタンダード品の開発、市場投入
- ▶ 電力環境省エネでの脱炭素化、AIやデータセンター関連の需要増トレンドに追従
- ▶ サプライチェーンとの共栄を推進し、リスクの最小化を図る

総資産 →

増加の抑制

- ▶ 秋田生産建屋や一定の生産能力までの設備投資は完了。今後、既存設備を活用しつつ、受注状況に応じ増産投資を追加。
- ▶ 本社生産棟の建替を計画
- ▶ 既存設備の有効活用、回収サイトの短縮化等を通じて、資産効率を促進

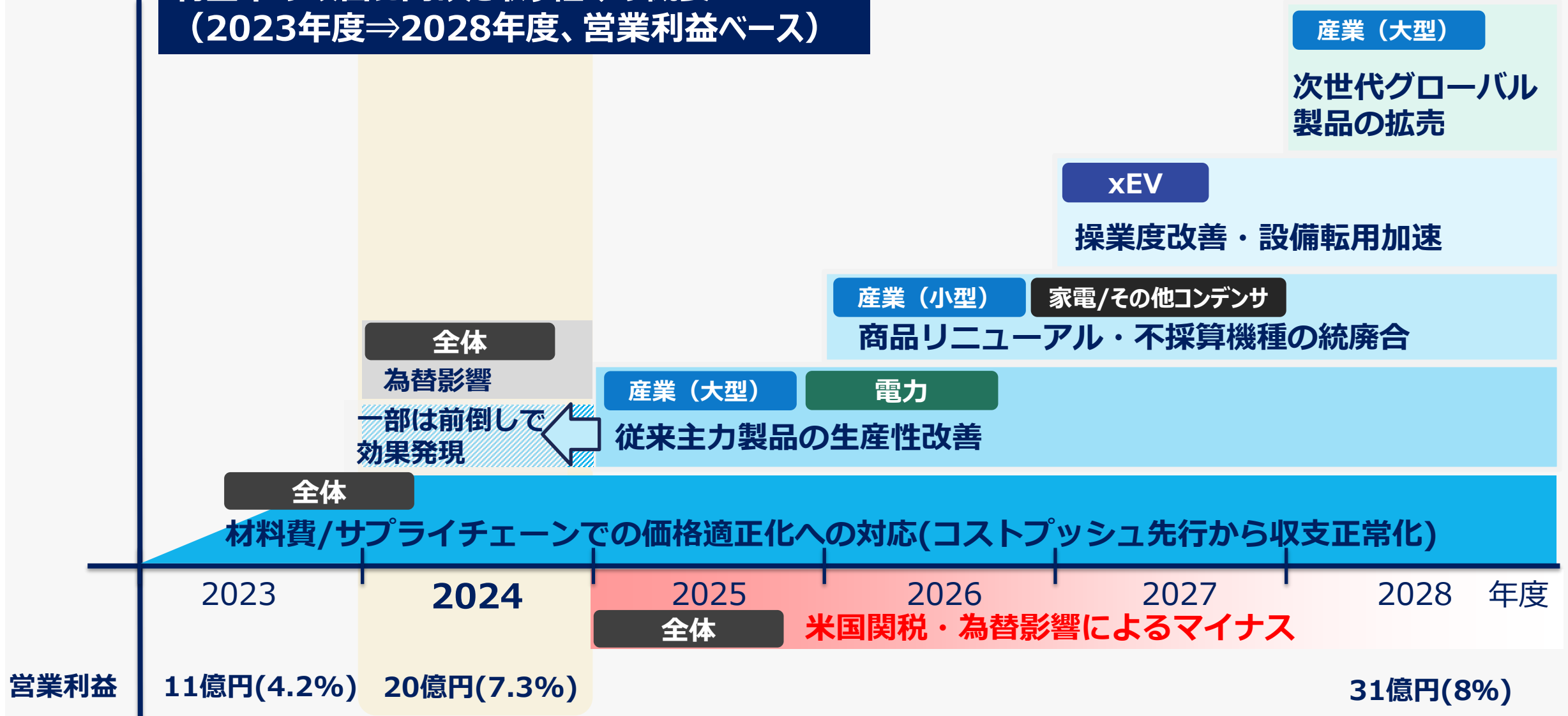
自己資本 →

増加の抑制

- ▶ 安定配当及び配当性向30%以上を堅持しつつ、DOEを意識した配当を検討
- ▶ 自己株式については、事業強化の観点での協業先との連携への活用を第一とし、状況に応じ、消却及び株式インセンティブ面での活用も検討

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

利益率の改善に向けた取り組みの概要 (2023年度⇒2028年度、営業利益ベース)



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

8) 経営目標

【億円】

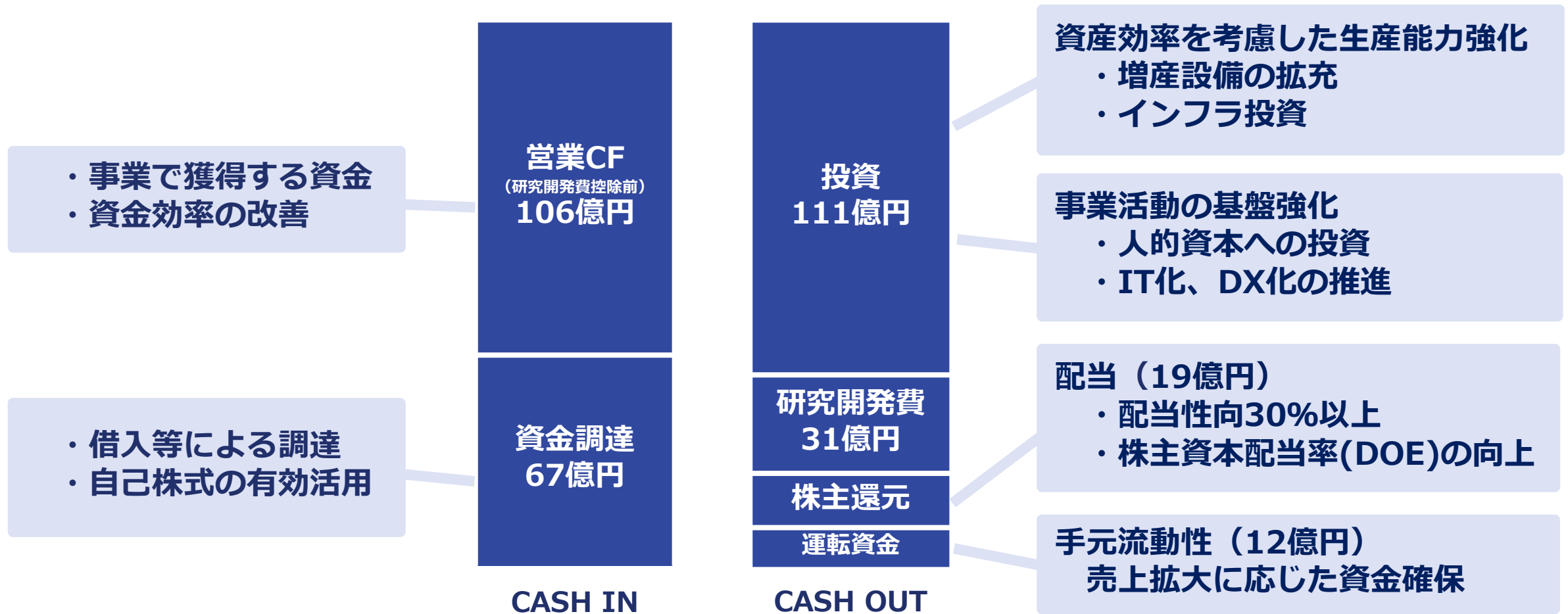
項目	中期経営計画第Ⅱ期		中期経営計画第Ⅲ期				
	2023年度	2024年度	2025年度		⇒	⇒	2028年度
	(実績)	(実績)	(計画)	(最新予想)			(計画)
売上高	263	273	280	280			380
コンデンサ	184	181	184	183			272
電力機器	79	92	96	97			108
営業利益	11	20	17	18			31
営業利益率	4.2%	7.3%	6.1%	6.4%			8%
当期純利益	2	12	11	11			22
当期純利益率	0.7%	4.4%	3.9%	3.9%			6%
ROE	0.8%	5.2%	4.6%	4.6%			8%

- ▶ 事業ポートフォリオ戦略と事業毎の競争力向上策を中心に、収益性/資産効率面の課題を克服し、企業価値を高める。
- ▶ 株主資本コストは、現状7%~8%と認識しており、これを上回る価値を創出できるように2028年度にまずは、ROE8%の達成を目指す。

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

9) キャピタルアロケーション (2025年度~2028年度)

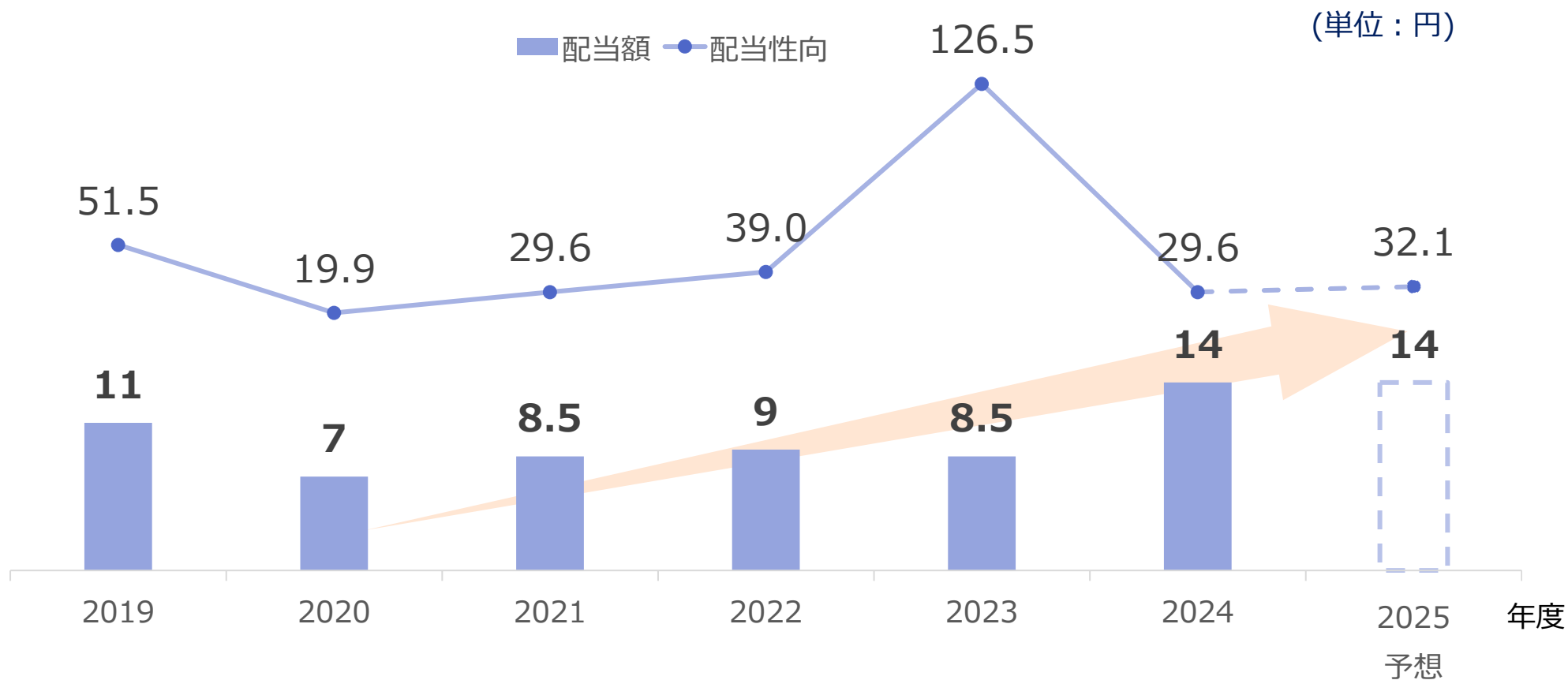
投資、株主還元を重点に効率的な資本配分を行い、企業価値向上及び持続的な成長を目指す



3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

10) 株主還元

- ① 配当方針：安定配当及び配当性向30%以上を堅持しつつ、DOEを意識した配当を検討
- ② 配当：2024年度は、利益の増加に伴い、14円へと前年度比5.5円の増配を決定
2025年度は、前年度と同額の14円を予想

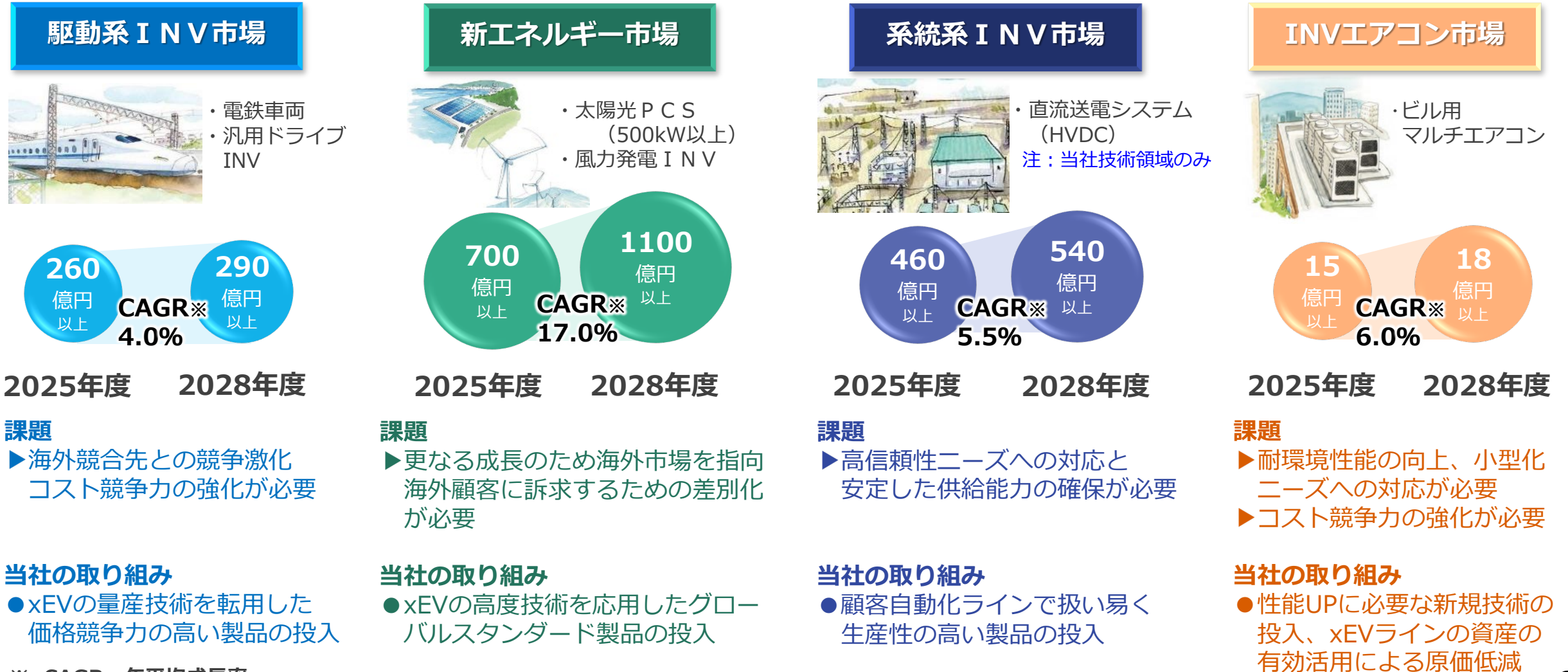


1. 2025年3月期（2024年度） 通期 連結決算概要
2. 2026年3月期（2025年度） 通期 最新見通し
3. 中期経営計画 第Ⅲ期の概要

■ 補足資料

1) 産業機器の市場環境と当社の取り組み

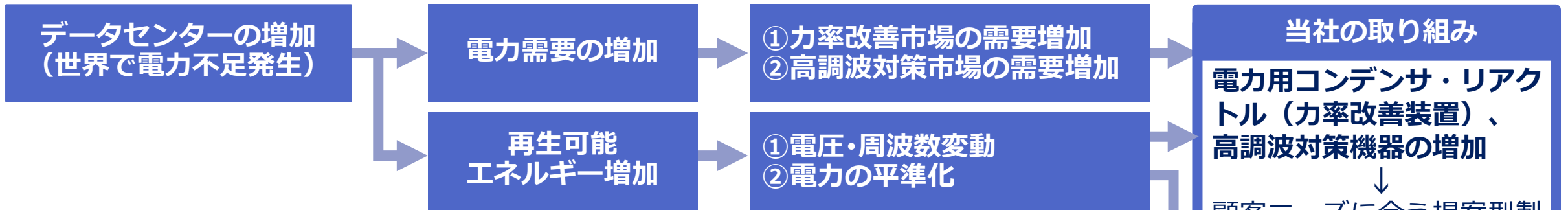
■ 産業機器の主要市場におけるフィルムコンデンサの世界需要と成長率 (成長率は各資料から当社が独自試算したデータ)



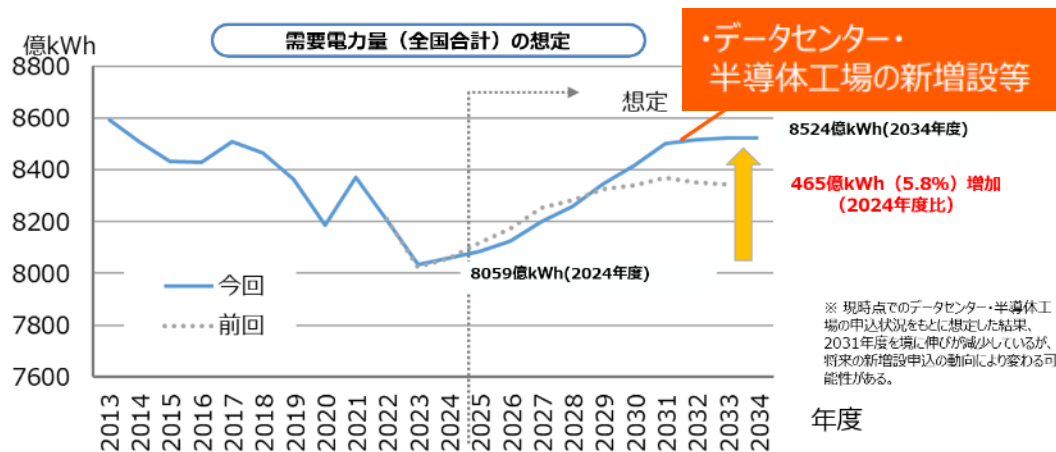
※ CAGR : 年平均成長率

2) 電力機器システムでの市場環境と当社の取り組み

■ 生成AIの急速な普及などでデータセンターが急増



■ 再エネ導入増加、EV普及、データセンター増加などによる直流給電の需要増加



当社の取り組み
電力用コンデンサ・リアクトル（力率改善装置）、高調波対策機器の増加

↓

顧客ニーズに合う提案型製品の開発を進め、製品競争力を強化しシェア拡大を目指す。展示会等で高調波抑制対策の実効性を訴求し、製品の認知度向上を図る。

当社の取り組み

コンデンサ技術と電力変換技術を駆使し、系統・発電・蓄電との最適連携を図る製品開発を強化する。



注意事項

この資料に記載されている、当社および当社グループに関する業績見通し、計画、経営目標、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、あくまでも将来の業績などに関する見通しであり、それらは各資料の作成時点において入手している情報と一定の前提に基づき作成されております。従いまして、実際の業績は経済環境、市場動向、製品の需要変動、価格変動、為替レートの変動などの重要なリスク要因や不確実な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性がありますのでご注意ください。

SHIZUKI ELECTRIC CO.,INC.